

平成24年3月期 第2四半期決算および通期業績予想について

ANAグループでは、本日10月28日(金)、平成24年3月期 第2四半期決算の概況を取りまとめました。詳細は別添の「平成24年3月期 第2四半期決算短信」をご参照ください。

1. 平成24年3月期 第2四半期の連結経営成績

(1) 連結経営成績(連結子会社63社、持分法適用会社22社)

① 概況

- ・ わが国経済は、本年3月11日に発生した東日本大震災の影響により、依然として厳しい状況にある中で、引き続き持ち直してはおりますが、海外景気の下振れ懸念や原油価格の高騰、為替・株価の変動等により先行きは不透明な状況となっております。
- ・ このような経済情勢の中、震災の影響を最小限にとどめるべく、需要喚起に努めるとともに、通期で300億円程度の緊急収支改善策を展開し、収支に与える影響を極小化しております。
- ・ 8月31日にエアアジア・ジャパン(株)を設立、9月26日にボーイング787型機を受領し、11月1日の定期便就航の準備を進める等、確実な事業戦略を遂行しています。

第2四半期の連結経営成績は、営業収入が7,048億円に増収、営業利益が501億円、経常利益は375億円となり、当期純利益は228億円と増益となりました。

単位：億円(増減率を除き、単位未満は切り捨て)

【連結経営成績】	平成24年3月期 第2四半期累計期間	平成23年3月期 第2四半期累計期間	増減	増減率(%)※1
営業収入	7,048	6,841	206	3.0
営業費用	6,547	6,273	273	4.4
営業利益	501	568	▲66	▲11.8
営業外損益	▲125	▲113	▲12	——
経常利益	375	455	▲79	▲17.4
特別損益	6	▲141	148	——
当期純利益	228	132	95	72.1

※1 前年同期との比較による増減率を示しています。

単位：億円(単位未満は切り捨て)

【セグメント情報】	平成24年3月期 第2四半期累計期間		平成23年3月期 第2四半期累計期間		増減	
	売上高	営業利益※2	売上高	営業利益※2	売上高	営業利益
航空運送事業	6,310	457	6,117	514	192	▲57
旅行事業	784	19	850	26	▲65	▲7
その他	677	21	683	25	▲5	▲3

※2 各事業における営業利益はセグメント利益に該当します。

②国内線旅客事業

- ・ 震災影響により需要が大きく減退しましたが、ビジネス需要は4月より回復に転じ、6月以降前年同期並みの水準で推移しております。一方、プレジャー需要は、未だ本格的な回復には至っていない状況です。
- ・ 震災直後の大幅な需要減退に対応する為、定期便の一部減便や多くの路線において機材の小型化を実施するとともに、旧盆期間を中心に需要の多い羽田＝札幌・沖縄線を中心に臨時便を設定し、需給適合を推進しました。
- ・ プレジャー需要喚起を目的とした週末限定の新運賃「週末割引」の設定、「スーパー旅割」等の値下げ、旧盆期間の「旅割」設定の拡大等、需要獲得に努めました。

結果として、国内線旅客収入は47億円（前年同期比1.4%減）の減収となりました。

（増減率、利用率を除き、単位未満は切り捨て）

【国内線旅客事業】	平成24年3月期 第2四半期累計期間	平成23年3月期 第2四半期累計期間	増減	増減率(%)
売上高(億円)	3,278	3,325	▲ 47	▲ 1.4
旅客数(千人)	19,217	20,957	▲1,740	▲ 8.3
座席キロ(百万座席キロ)	28,408	28,398	9	0.0
旅客キロ(百万人キロ)	17,053	18,632	▲1,578	▲ 8.5
利用率(%)	60.0	65.6	▲ 5.6	——

③国際線旅客事業

- ・ 震災影響により需要が大きく減退しましたが、4月中旬頃から回復に転じ、ビジネス需要が牽引し、6月にはほぼ震災前の水準に回復しました。日本発プレジャー需要も7月以降は堅調に推移していますが、海外発訪日需要の回復には時間を要しています。
- ・ 震災による需要減への対応として運休していた成田＝ソウル(仁川)線、および減便していた成田＝北京線を7月1日より再開・復便した他、成田＝ホノルル線等、需要の旺盛な路線については機材を大型化し、需給適合を推進しました。
- ・ 夏場のプレジャー需要獲得を目的とした「エコ割サマースペシャル」・「エコ割ユース」を発売するとともに、震災影響が大きい訪日需要に対しては、各地域の政府・業界団体・メディア等の視察旅行を積極的に誘致する等、訪日イメージ回復に向けた活動が奏功し、需要は緩やかに回復を続けております。

結果として、国際線旅客収入は177億円（前年同期比12.5%増）の増収となりました。

（増減率、利用率を除き、単位未満は切り捨て）

【国際線旅客事業】	平成24年3月期 第2四半期累計期間	平成23年3月期 第2四半期累計期間	増減	増減率(%)
売上高(億円)	1,596	1,418	177	12.5
旅客数(千人)	2,840	2,601	239	9.2
座席キロ(百万座席キロ)	16,919	13,925	2,993	21.5
旅客キロ(百万人キロ)	12,204	11,025	1,179	10.7
利用率(%)	72.1	79.2	▲7.0	——

④貨物事業

- ・ 国内線貨物は、震災影響のもと北海道路線を中心とした陸送からの代替需要が発生したこと等により、輸送重量は前年同期実績を上回りました。
- ・ 国際線貨物は、震災による自動車部品等のサプライチェーンへの影響により航空貨物輸送全般の需要減が懸念されましたが、当初予想を上回る生産回復と羽田国際化に伴う国際線貨物スペースの増加もあり、輸送重量は前年同期実績を上回りました。

結果として、国内線貨物収入は8億円(前年同期比5.2%増)の増収、国際線貨物収入は42億円(前年同期比10.4%増)の増収となりました。

(増減率、利用率を除き、単位未満は切り捨て)

【貨物事業】		平成24年3月期 第2四半期累計期間	平成23年3月期 第2四半期累計期間	増減	増減率(%)
国内線	売上高(億円)	164	156	8	5.2
	輸送重量(千トン)	229	219	9	4.4
	有償貨物トンキロ(百万トンキロ)	228	218	9	4.4
国際線	売上高(億円)	451	409	42	10.4
	輸送重量(千トン)	277	272	5	1.9
	有償貨物トンキロ(百万トンキロ)	1,081	998	82	8.3

(2)連結財政状態

①連結財政状態について

(自己資本比率、D/Eレシオを除き単位未満は切り捨て)

【連結財政状態】	平成24年3月期 第2四半期末	平成23年3月期末	増減
総資産(億円)	20,776	19,280	1,496
自己資本(億円)(注1)	5,098	5,202	▲104
自己資本比率(%)	24.5	27.0	▲2.4
有利子負債残高(億円)(注2)	10,743	9,388	1,355
D/Eレシオ(倍)(注3)	2.1	1.8	0.3

注1: 自己資本は純資産合計から少数株主持分を控除しています。

注2: 有利子負債残高にはオフバランスリース負債は含みません。

注3: D/Eレシオ=有利子負債残高÷自己資本

②連結キャッシュ・フローの状況

単位: 億円(単位未満は切り捨て)

【連結キャッシュ・フローなど】	平成24年3月期 第2四半期累計期間	平成23年3月期 第2四半期累計期間
営業活動によるキャッシュ・フロー	904	1,213
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲1,715	▲1,784
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,267	1,026
現金および現金同等物期末残高	2,470	1,935
減価償却費	584	576

2. 通期の見通し

- ・ 当第2四半期までの業績は概ね当初計画どおりに推移しておりますが、国内外の景気後退懸念や為替影響等、当社グループを取り巻く環境は依然、不透明な状況です。
- ・ このため、本年7月29日に発表しました連結業績見通しに比べ、営業収入が100億円程度減少する見込みです。
- ・ 一方、引き続きコスト削減等に努めることで、減収見込み額と同額の営業費用を削減し、営業利益・経常利益・当期純利益の見通しは当初発表どおりと致します。

以上により、連結業績見通しは以下のとおりとなります。

単位：億円(単位未満は切り捨て)

【平成24年3月期見通し】 (連結業績)	今回修正予想	前回発表予想 (平成23年7月29日発表)	増減	前期実績 (平成23年3月期)	増減
営 業 収 入	14, 000	14, 100	▲ 100	13, 576	423
営 業 利 益	700	700	——	678	21
経 常 利 益	360	360	——	370	▲ 10
当 期 純 利 益	200	200	——	233	▲ 33

以 上